

編集後記

本号では、第51回、第52回横幹技術フォーラムのテーマを参考に、「ヘルスデータサイエンスの展開」と「IoT・ビッグデータ・AI時代の企業間連携とプラットフォーム」の2つのテーマをそれぞれ特集として、解説記事のご執筆をいただきました。

「ヘルスデータサイエンスの展開」に関する特集では、IoTの整備、ヘルスケアデータの収集とビッグデータの解析手法を、具体的な事例を交えて紹介いただくことで、個人の健康管理を目指した今後の展開を紹介しています。渡辺氏は、「未病ケア・予防」「治療の個別化」「ヘルスケアに対する個人の主体的関与」が特徴となる Society5.0時代のヘルスケアにおいて、医療・看護など専門性の高い領域でのヘルスデータサイエンティスト育成の必要性を具体的な事例を交え、分かり易く解説いただいています。野村氏は、ウェアラブルデバイスやスマートフォンを通して大量に収集されるビッグデータを有用な健康管理情報として利活用するための、データマイニング手法の適用について、その方法を具体的な事例を交えて分かり易く解説いただいています。丹野氏は科学的根拠に基づいた医療における Evidenceとして、患者の価値観・行動を分析する必要性を紹介し、HAL 医療用下肢タイプを使用した歩行運動治療の意志決定後の評価に Decision Regret Scale を用いる研究事例を紹介いただいています。

「IoT・ビッグデータ・AI時代の企業間連携とプラットフォーム」に関する特集では、第4次産業革命実現に向けてのビジネスモデルの可能性、必要となるビジネスイノベーションを具体事例も踏まえて紹介いただいています。藤井氏は、複数の電機メーカーが、顧客企業との「協創」によりデジタル技術がつながることで新しい価値を提供する協創型マーケティング戦略の具体事例を解説いただいています。歌代氏はIoT時代の企業の戦略課題を、「生活・経済等活動空間」「製品生産供給プロセス」「サイバー空間」の3領域に分けて分かり易く整理

解説いただいています。そして、IoT時代の企業戦略パターンとして情報資産ベースイノベーションを取り上げ、その具体的事例と課題を紹介いただいています。高橋氏は、IoTプラットフォームビジネスの高付加価値化の一つとしてスケール化に焦点をあて、GAF A やシェアリングエコノミーで代表されるプラットフォーム市場との比較を含むIoTプラットフォームの現状を述べ、IoTプラットフォームの特性を分かり易く整理分析いただき、具体事例として Nest, Propeller, タクベルを取り上げ解説いただいています。

巻頭言は、横幹連合理事の椿広計先生に執筆いただきました。先生のこれまでの横幹連合での活動のご紹介から、横幹連合の学際的な科学技術の連携による、社会の課題解決の要請に則した活動の履歴を読み取ることができます。そして Society 5.0におけるデータ・サイエンスの使命を「情報(データ)に基づいて、有効なプログラムを創生し、法則に支配されているシステムに指示を与え、選択された価値を実現する」との捉え方は、とても示唆に満ちた内容と感じました。

また、会員学会相互の理解を深める一助となることを意図し、これまでの会員学会紹介に加えた新たな企画として、各学会のイベント紹介記事をトピックとして掲載いたしました。ここでは、経営情報学会、日本経営システム学会、研究イノベーション学会、計測自動制御学会、日本開発工学会の5学会から、年次全国大会などの活発な活動の様子をご紹介いただきました。これについては、今後も継続的に掲載予定です。

Society 5.0実現に向けての取り組み、SDGs達成への貢献など、「横幹」への投稿が相応しい研究テーマは多数存在すると思っています。原著論文は、査読付ですので、横幹コンファレンスでご発表いただいた内容を論文としてまとめていただくのも一案かと思っています。多くの皆様方からの原著論文の投稿をお待ちしています。

会誌編集委員長 横山清子

【特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）】

□ 2018 年度役員

会 長	北川 源四郎 (東京大学)	
副会長	船橋 誠壽 (国際環境研究協会)	本多 敏 (慶應義塾大学)
理 事	浅間 一 (東京大学)	板倉 宏昭 (産業技術大学院大学)
	大倉 典子 (芝浦工業大学)	大塚 敏之 (京都大学)
	岡田 勇 (創価大学)	木村 忠正 (電気通信大学)
	倉橋 節也 (筑波大学)	小平 和一郎 (アーネスト育成財団)
	高寺 政行 (信州大学)	高橋 泰城 (北海道大学)
	田名部 元成 (横浜国立大学)	田村 義保 (統計数理研究所)
	椿 広計 (統計センター)	椿 美智子 (電気通信大学)
	出口 光一郎 (東北大学)	仲田 隆一 (元・(株)東芝)
	長谷川 恭子 (立命館大学)	皆川 健多郎 (大阪工業大学)
	村上 存 (東京大学)	横山 清子 (名古屋市立大学)
監 事	末岡 徹 ((株)キタック)	六川 修一 (東京大学)

□ 2018 年度会誌編集委員会

委員長	横山 清子 (名古屋市立大学)	
副委員長	倉橋 節也 (筑波大学)	
委 員	青柳 秀紀 (筑波大学)	穴太 克則 (芝浦工業大学)
	大塚 敏之 (京都大学)	金子 勝一 (山梨学院大学)
	小平 和一郎 (アーネスト育成財団)	玉置 久 (神戸大学)
	椿 美智子 (電気通信大学)	出口 光一郎 (東北大学)
	藤井 享 ((株)日立製作所)	松岡 猛 (宇都宮大学)
	水野 毅 (埼玉大学)	三宅 美博 (東京工業大学)

■横幹技術協議会の主な活動実績 『横幹技術フォーラム』

横幹連合との共催で定期的に行っている「横幹技術フォーラム」では、複合的視点を必要とする企業課題への技術情報を提供しております。

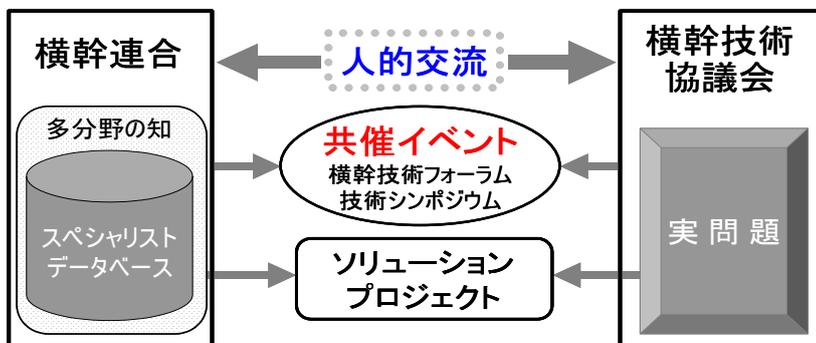
＜過去のフォーラム実績＞

- 第 32 回 情報共有による社会インフラの強靱化～システム技術の新たな挑戦課題～
- 第 33 回 強いぞ！日本
～社会情報学の視点から東日本大震災からの復旧・復興を考える～
- 第 34 回 東日本大震災からの復興支援現場における支援活動
～次世代に向けた日本の街づくりとして我々は何ができるのか～
- 第 35 回 エネルギーマネジメントの新しい局面～社会システムの構築段階を迎えて～
- 第 36 回 アート・デザイン・テクノロジー～近くて遠いその関係～
- 第 37 回 「未来学」の過去・現在・未来
- 第 38 回 サービス学の成立 ～サービス科学・サービス工学の発展を受けて～
- 第 39 回 社会システム論で社会を読み解く
- 第 40 回 社会デザインのためのエージェントベースシミュレーション
- 第 41 回 社会的課題解決のためのイノベーション～社会システムとしての街づくり～
- 第 42 回 数学と産業の協働、データサイエンティストの育成
～イノベーションの創出と促進に向けた先進的取り組み～
- 第 43 回 経営高度化としての統合リスクマネジメント経営の考察
- 第 44 回 ロボット活用社会の新潮流
- 第 45 回 システムデザイン力を展望する
- 第 46 回 第6次産業への取り組み～複数システムの連携による価値構築～
- 第 47 回 4次産業革命に向けたサービス科学の役割とビジネス応用に向けた課題
- 第 48 回 人工知能によるシステム構想力・統合力の強化
～ものづくりプラス企業の実現に向かって～
- 第 49 回 ビジネスイノベーションが先導する第4次産業革命（IoT/インダストリアル4.0）の実現に向けた産・学・官の役割と課題とは
- 第 50 回 未来洞察（Foresight）活動の取り組みの現状とその活用
－科学技術融合時代の先取りを目指して－
- 第 51 回 ヘルスケア・サイエンスの取り組みと現状
－医療に頼らない健康管理のためのヘルスケア－
- 第 52 回 IoT・ビッグデータ・AI時代の企業間連携とプラットフォーム
－センシングデータ利活用の可能性と課題－
- 第 53 回 Society5.0時代のヘルスケア（その1）

※過去のフォーラムプログラムはHP(<http://www.trasti.jp/about.html#forum>)でご覧いただけます

■企業の課題解決支援（プロジェクト活動）

企業が抱える実問題に対し、他分野の専門家が共同してプロジェクトを組みソリューションを追求するもので、さまざまな要素が絡み合う複雑な課題へアプローチする、新たな産学連携の仕組みとして注目されています。横幹技術協議会では、中核会員企業に初期のフィジビリティスタディ段階のサービスを提供しています。



統合知による産業力強化を推進



横断型基幹科学技術推進協議会

会長 桑原 洋

日立マクセル(株)名誉相談役
元 内閣府総合科学技術協議会協議員

横断型基幹科学技術推進協議会（略称：横幹技術協議会）は、企業を会員として横幹科学技術の推進活動を行っています。

「学」を中心とする横幹連合と、「産」を主体とする横幹技術協議会は互いに緊密に連携しながら、横幹科学技術を推進し、産業活動に生かすためのさまざまな活動を行っています。横幹連合と横幹技術協議会は、車の両輪として、横幹科学技術の学としての深化と社会への活用に取り組んでいます。

（設立：2004年5月）

■参加会員（2018年10月現在）

- 【中核会員】
株式会社 日立製作所
- 【一般会員】
鹿島建設 株式会社
三菱重工業 株式会社

横断型基幹科学技術推進協議会

Transdisciplinary Science and Technology Initiative

TEL&FAX:03-6675-4076 URL: <http://www.trasti.jp/>